福島県の外国人宿泊客 過去最高の10万人超に

県の調査データから

福島県によると、同県の昨年1年間の外国人宿泊者数（実人数）は10万3882人となり、平成12年の調査開始以来、最高となった。前年比でも39・8％の大幅増。福島空港の国際線就航先である中国、韓国に加え、台湾、香港でも過去最高の宿泊者数となった。

◇　◇

韓国、台湾、香港、中国の4カ国・地域で全体の92・0％を占めた。

宿泊地域別の構成比をみると、会津が56・9％、とりわけ裏磐梯・猪苗代地域が47・8％（4万8029人）と、全体の半分近くを占めている。以下、県北23・3％、県南9・0％。

月別では、11月（1万1347人）が最も多く、以下4月（1万1140人）、10月（1万1104人）の順。逆に少ないのは3月（5869人）、1月（6440人）など。ただ、すべての月で5千人を超え、宿泊の通年化の傾向がみられる。

主要国・地域の状況は次の通り。

【韓国】前年比48・6％増の5万6604人。訪日観光ビザの免除効果や週休2日制の定着、ウォン高円安基調に加え、ゴルフの人気などが影響。ゴルフ利用客は前年に比べ倍増した。またスキー場関係者や県が新たに取り組んだスキー客の誘致により、冬季（1～3月）に737人の誘客効果が表れた。

【台湾】前年比5・8％増の1万9433人。日本でのはしかの流行が台湾現地で大きく報道されたため、一時的に訪日旅行を敬遠する動きがあったものの、教育旅行の増加や桜の季節の大規模なプログラムチャーター便の運航などにより増加基調を維持できた。月別では桜と紅葉の季節に集中している。

【香港】前年比68・1％増の1万3300人。「YOKOSO JAPAN東北委員会」が香港で放映したTVでの東北の旅番組が高視聴率をあげ、東北旅行の注目度が高まった。12月からは雪の情景をテーマにした長期の連続チャーター便が運航され、月別の宿泊者数もこの時期に多くなっている。

【中国】前年比62・7％増の3048人。リピーターを対象に、東京と組み合わせた特徴ある旅行商品を提案。広東省からの通年のツアー実施が来県客数の伸びをけん引している。

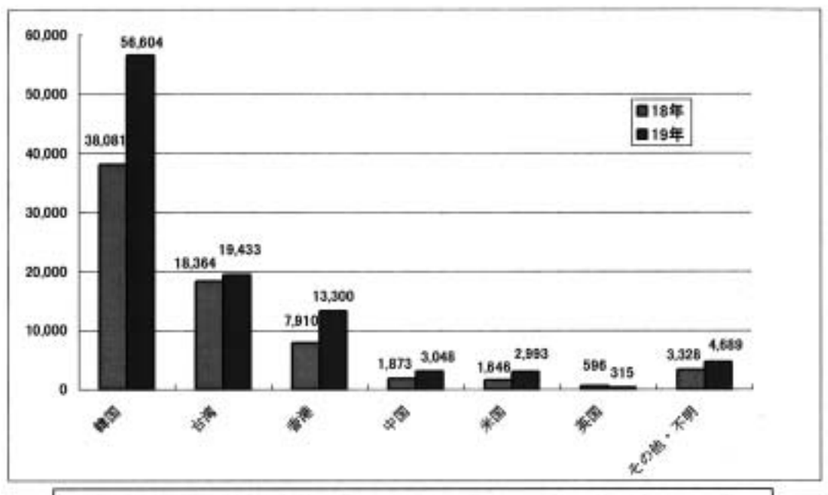
外国人宿泊状況（平成19年）

（単位：人）

		平成19年 宿泊客数	平成19年 構成比	平成18年 宿泊客数	平成18年 構成比	差引 ⑲－⑱	伸び率
合計		100,382	100.0%	71,798	100.0%	28,584	39.8%
国別	韓国	56,604	56.4%	38,081	53.0%	18,523	48.6%
	台湾	19,433	19.4%	18,364	25.6%	1,069	5.8%
	香港	13,300	13.2%	7,910	11.0%	5,390	68.1%
	中国	3,048	3.0%	1,873	2.6%	1,175	62.7%
	その他	7,997	8.0%	5,570	7.8%	2,427	43.6%

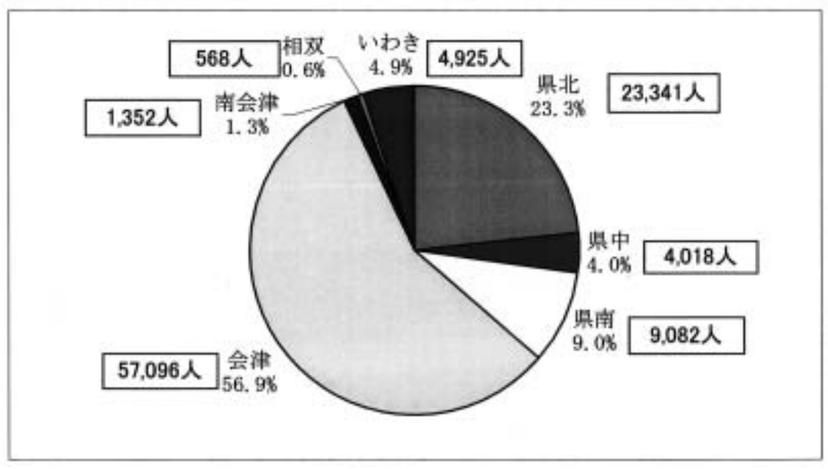
※数値は実人数（1人が連泊しても1人としてカウント）

外国人宿泊者数国別比較（18年・19年）



主要目標国・地域の合計　⑲92,385人　⑱66,228人　伸び率39.5%増
（韓国・台湾・香港・中国）

平成19年地域別外国人宿泊者数



サミットと北海道観光

在北海道各国領事に聞く④

北海道洞爺湖サミットが7月7～9日に開かれる。日本における5回目のサミットで、舞台となる北海道は世界にその存在をアピールするまたとないチャンスとなる。本紙ではサミット開催を控え、在北海道の各国総領事・領事に、日本と北海道の観光の魅力や、観光振興への提言を聞いた。

在札幌オーストラリア領事　サリー・フィリップス氏

開拓の余地まだある

統一プロモーションの展開を

4回目は在札幌オーストラリア領事館のサリー・フィリップス領事。聞き手は本社顧問の石子彭培。

――洞爺湖サミットに何を期待するか。

フィリップス　とてもエキサイティングな行事で、札幌は忙しくなるだろう。

北海道は日本の中でもとても素晴らしいところだが、外国人が日本を考える時、北海道のことはあまり分からないと思う。日本を思い浮かべるとすると、モダンな感じでいくと東京の秋葉原、伝統的な感じだと京都。北海道に世界遺産があることなどあまり知られていないが、これからサミットが開催されると、北海道は世界の人たちに注目されて非常にいいことだと思う。

北海道は、食べ物がおいしいし、自然があるし、雪まつりがあってスキーもできる。しかしこれらは中国などアジアの人たちには知られていることだが、オーストラリアやアメリカなどにはまだ知られていない。サミットはこれらをPRするいいチャンスだと思う。

――北海道の印象はどうか。

フィリップス　北海道に住んで2年3カ月ほどになるが、素晴らしいところだと思う。物価はそれほど高くないし、おいしいものもたっぷりある。オーストラリアは北と南では雰囲気や気候が異なるが、北海道はオーストラリアに似ているところがある。北に行けば知床があり、札幌に来れば都会的で、函館には歴史があるなど、非常に面白い。とてもいい経験をさせてもらっている。

言葉も北海道はあまりなくて、標準語で話してくれるので、分かりやすくて助かっている。皆さん心が温かで、ほかの日本の地域とは少し考え方が違うと思う。

――北海道の観光客を増やすにはどうすればいいか。

フィリップス　アジアなど近隣の国の人たちには、北海道観光は知られているが、まだまだ他の国に知らせる余地があると思う。オーストラリアやアメリカのPRがうまいのは、プロモーションのポリシーをつくっていることだ。日本では、旅行会社とか航空会社とか会社単位でツーリズムのプロモーションを行っているが、バラバラにやるよりも、統合してひとつのプロモーションポリシーをつくって行った方がいいと思う。

例えば、オーストラリアの若者は、京都や大阪や名古屋などの、伝統やハイテクに非常に興味を持っている。北海道も知床とか都会の札幌をミックスしたキャンペーンを行えばいい。

ウィンタースポーツについては、今以上にプロモーションした方がいい。

ニセコの場合、外資が施設を建設したり、経営したりしていることは、オーストラリアではよく知られているが、投資については少し状況が変わっている。今まではオーストラリアが一番多かったが、今はオーストラリアが50％で、中国、香港、シンガポールが多くなっている。そして、20代、30代のお金を持っている若い人たちが近くでスキーをしたいと思って、近郊に土地を買っている。

ただ、これからはイギリスなどのヨーロッパや、アメリカの人たちも大勢来ると思うので、そういったところへのプロモーションも行ったらいい。

北海道にとって投資が大歓迎だとしたら、もう少し英語の標識などを整備した方がいい。2、3年前に比べたら、だいぶ増えたとは思うが、富良野、知床、函館などにも増やしていけばいいと思う。

私はタクシーに乗ると、運転手さんとよく話をするが、これからはオーストラリア人が夕張に進出するかもしれないという話を聞いた。本当かどうかは分からないが、ニセコから他の地域に広がっていけばいいと思う。

日本では温泉が昔からあるが、オーストラリアではスパが週末を中心に楽しまれている。温泉とは少し違うが、基本的な考え方は同じだ。

北海道には天然の温泉が豊富にあるので、マッサージやエステを楽しめるようなスパをつくればいいのではないか。女性の立場で言えば、スキーの後にエステや買い物をしたい。ニセコや富良野も、今のままで物足りないとは言わないが、スパなどがあれば非常に便利だ。アメリカやヨーロッパの観光客は、スキー以外のこともいろいろと体験したいと思っている。昼は一生懸命にスキーをして、夕方3時頃からスパに入ったあと、買い物をして、おいしいディナーを食べて、それからナイトライフを楽しみたい。これまでのように、1日中一生懸命スキーをして、部屋に戻って、ビールを飲んですぐに寝て、次の日になったらまた1日中一生懸命スキーをするということではなく、もう少しいろいろな体験をしてみたい。民芸品を見たり、日本語を勉強したり、日本の文化を勉強したいと思っている。これらの体験を、スキーを中心にしてパッケージ化したらいいのではないか。

また、もっと観光客に来てもらいたいのであれば、冬だけではなくて、夏観光の仕組みも考えた方がいい。富良野や美瑛などビュースポットはたくさんあるが、ニセコを含め、北海道全体で見るとまだ開拓されていないようだ。

――オーストラリアの

フィリップス　オーストラリアは北と南では違う国のような感じになる。北は素敵な海があってハワイのような雰囲気があるし、南は北海道と似ている気候だ。オーストラリアは自然が多いし、食べ物も安全だ。島なので病気がほとんど入ってこない。ライフスタイルはカジュアルで、これも北海道に似ていると思う。また、オーストラリアには独特な動物がいる。スキーもできるし、海もあるので、興味があればいろいろと面白いことが体験できると思う。

サリー・フィリップス氏　1969年12月18日、ニューサウスウェールズ州生まれ。1991年グリフィス大学現代アジア学文学士号取得。クイーンズランド州政府開発省日本事務局シニア・トレード・オフィサー、同州政府貿易投資事務所東京ビジネス・ディベロップメント・マネージャー、同州政府貿易部北アジア担当マネージャーなどを歴任後、2005年から在札幌オーストラリア領事館領事とオーストラリア政府貿易促進庁トレード・コミッショナー。

「5つ星の宿」
※「5つ星の宿」は、観光経済新聞社の登録商標です。
旅のプロが選んだ宿。一挙、掲載!!
星5ついただきました。
近日発売予定!!
「5つ星の宿」とは、
観光経済新聞社が主催する「人気温泉旅館ホテル250選」で、通算5回以上入選した施設に贈られる商号。日本の旅館・ホテルの「5つ星認定」は業界初！ 2007年度は203軒の宿が認定を受けました。
「人気温泉旅館ホテル250選」は、全国主要旅行会社社員による温泉宿人気投票。「施設」「料理」「サービス」「雰囲気」などの観点で“プロの視点”からお勧めの宿を一人5軒まで投票してもらい、上位250軒を毎年公表。観光業界のみならず、各界からも大きな注目を浴びている一大イベントです。
A4変型判・176ページ、オールカラー　定価1,500円（税込／送料340円）
※一般書店では取扱っておりません。直接下記までお申し込み下さい。
お申し込み お問い合せは　観光経済新聞社 出版部　TEL.03-3827-9800　FAX.03-3827-9730　E-mail:info@kankokeizai.com